



2014-12
第 687 号

京都青年

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION NEWS

ホームページ <http://www.kyotoymca.or.jp>

The 125th Anniversary 1889-2014

京都YMCAの使命

京都YMCAは

- ・イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづき、青少年と共に精神・知性・身体の全人的な成長を促す運動をすすめます。
- ・人々との出会いを通じ、互いの人権を尊重し、生涯にわたって共に学び合う学習活動を展開します。
- ・地球的な視点から、望ましい環境の実現につとめつつ、いのちあるすべてのものがともに生きる平和な世界を築く運動を展開します。

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2 ●京都版発行人／神崎清一

THE YMCA

2014年12月1日発行（毎月1回発行） 昭和22年10月27日第三種郵便物許可

京都YMCAの原点から現在、未来へ

新島襄と京都ステーション

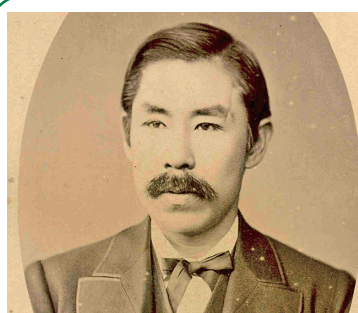
京都YMCA 125周年記念式典企画委員

遠藤 浩

19世紀初頭、北米大陸プロテスタント諸教派の間で連鎖的に広がった信仰復興（リバイバル）の熱波は海外伝道の機運を高めるとともに、全米にYMCAを生む土壌ともなりました。清新闊達な信仰に燃えた北米プロテスタント諸教派は、折しも長い鎖国をといた日本へも宣教師を次々送り込み、日本にYMCAが生れる下地をも造ったといえます。

ト教主義総合大学設立を日本という、遠大なものでした。同時に、かの地で清教徒的篤信の気風と高い倫理感に共鳴した彼は、会衆派教会に属しアンドーバー神学校で神学を修め、牧師となりました。そして、海外伝道に着手していた会衆派教会宣教師の身分も携え、一八七四年、

約10年ぶりに祖国の土を踏みます。いらい彼は、伝道者と教育者の両面を合せもったといえそうです。新島の現代にまでおよぶ感化と影響力をみたとき、たんに立場的に多面だっただけでなく、彼自身の魅力が多面的だったことも思わずにいられません。生来のものに加え、武士道と愛国の熱



新島襄

資料：同志社大学
同志社社史資料センター所蔵

同志社の校祖新島襄は、そうした米国からの宣教師の1人でした。厳密には伝道通信員で準宣教師の扱いながら、日本人ゆえ米国教会の期待は大でした。新島を話題にするのは、彼が京都YMCA草創期においても、大きな力があつたからです。



創立者たち。

前列左より、フェルプス、佐伯理一郎、田村初太郎（会長）、福田令寿（副会長）、吉崎彦一、鶴崎庚午郎、後列左より、中村栄助、堀内徹、松山高吉、カルチス、横浜源一郎、和田琳熊、高島為次郎（1903年撮影）。

ほかに理事としてJ・D・デヴィス、宇野重喜、大澤善助、財産保管人に湯浅治郎、平瀬与一郎が就任

情、米国仕込みの自由かつ倫理を重んずる信仰などが一個の人格に統合し、ひろく大きく、新しい人物として当時の日本人々、とりわけ新島を望みみる若者たちには映じたことでしょう。そして、新島から若き日に鮮烈な人格的感化をうけた彼らが、やがて京都YMCAの草創期を担っていくことになります。

さて、当時の非キリスト教世界への伝道戦略は、欧米の先進的教育や福祉、医療と抱合せでした。換言すれば、西欧近代文明を伝えることとセットでした。日本でキリスト教伝道が解禁されたのも、そうせねば欧米から近代文明を学べず、近代化が遅れば植民地にされるという圧力を、ときの政府が感じたためです。

すでに述べたように当時伝道は複合的で、キリスト教の学校・病院・福祉施設またYMCAなどは教会を中心に、現在よりずっと近い関係性のうちにあったと思われまふ。この複合体を

称し「〇〇ステーション」と呼びます。京都には「京都ステーション」が、というわけです。新島が、京都ステーションの頂点にいた 1 人であったことはもちろんですが、ほかにもステーション内で複数の役割をにない、支える人が現れてきました。ステーション全体に参与し、なかでも同志社と京都 YMCA を支え多面にはたらいた人に、中村栄助、大澤善助がいました。キリスト教のステーションを超えて、京都府政・市政の近代史からみても巨大な貢献をしたこれらの人々は、我こそ新島の弟子と自認し、それゆえキリスト教と青年の、社会への自由な羽ばたきである京都 YMCA を、その草創期から発展期に支えたのでしょう。新島本人も、京都における YMCA 草創期の動きに注目、折にふれ励ましの言葉を贈っています。

このように、新島による同志社と新島の弟子たちによる京都 YMCA とは、ルーツを同じくするものであり、彼らが京の地にまいた種子は、諸教派個別の、さらにはキリスト教総体の枠までも超えて京都市、京都府の多様な人々のあいだで枝をのばし、多様で豊かな果実をみわたせてきた、といつてよいと思われまふ。

京都 YMCA 125 周年記念式典が、来年 2 月同志社において行われます。YMCA が、一団体自己完結ではない「現代の京都ステーション」形成を目指し、個人やコミュニティにひろく開かれ、人々の羽ばたきをつなぎ支える団体の使命と展望をいっそう明確にする好機です。同志社での原点再確認が、現在から未来へつながれば、意義ぶかいことではないでしょうか。

参考文献

中村栄助『九拾年』中村エン、一九三八年。

和田洋一『新島襄』日本基督教団出版局、一九七四年。

『アメリカン・ボード宣教師・神戸・大阪・京都ステーションを中心の一八六九—一九八〇年』同志社大学人文科学研究所・教文館、二〇〇四年。

『京都 YMCA 史』京都 YMCA、二〇〇五年。

『同志社学生キリスト教運動史』同志社学生キリスト教運動史編集委員会、二〇一〇年。
『日本 YMCA 人物事典』日本 YMCA 同盟、二〇一三年。
他



活動報告

kyoto ymca activity report



第4回 AIDS文化 フォーラムin京都



第4回 AIDS 文化フォーラム in 京都「エイズを知ろう、エイズで学ぼうⅣ」が10月4、5日に同志社大学新町キャンパス尋真館にて開催されました。AIDS 文化フォーラム in 京都運営委員会主催のフォーラム事務局を京都 YMCA が担当しています。HIV / AIDS への理解を深めるために、「若者の視点」「文化の視点」「陽性者の視点」「医療の視点」「教育の視点」「セクシャリティーの多様性を理解するという視点」から、46の講演・ワークショップ、22の個人・団体による展示を行いました。2日間で約1200名の来場者がプログラムを通して、性の多様性を知ること、HIV を理解していくこと、HIV / AIDS が決して他人ごとではないことを学ぶ機会となりました。

報告 浅井陽子

国際協力街頭募金

11月2日(日)に、京都市内11か所及び舞鶴市内3か所で国際協力街頭募金を行いました。当日は雨が心配されましたが、京都 YMCA のプログラムに参加する子どもたち、ボランティア、専門学校在籍の留学生、ワイズメンズクラブメンバーなど合計375名の方に参加いただき、総額31万1千829円の募金が寄せられました。皆様の温かいご支援とご協力に感謝いたします。

この国際協力募金は、日本 YMCA 同盟を通して、紛争で避難せざるを得なくなったアフガニスタン難民・パレスチナ難民の子どもたちの教育支援、京都 YMCA が行う貧困で苦しむインド・ネパールの子どもたちへの支援活動などに使わせていただきます。

報告 藤尾 実



125周年記念事業 YMCA祭



11月3日(月・祝) 毎年恒例の京都YMCA国際福祉専門学校の学園祭「YMCA祭」を開催しました。今年は京都YMCA創立125周年を記念し、「125年のあゆみ、作ろう優しい世界」をテーマにより多くの方に京都YMCA国際福祉専門学校の存在を知ってもらう機会となるよう、介護福祉学科の学生を中心に自ら企画・準備に取り組みました。

当日、会場内に、模擬店をはじめ日頃実習でお世話になっている福祉施設の物品販売コーナーや子ども達の遊び場のコーナーを設け、多くの来場者で賑わいました。ス



テージでは、介護福祉学科の教員と学生による「介護テクニク講座」、日本語科の学生による「のど自慢大会」や学生有志によるバンド演奏などが披露され、日ごろの学習成果やチームワークを発揮する場となりました。また、今回は関西盲導犬協会より職員の方と盲導犬をお招きしました。講演を通じて盲導犬の果たす役割と視覚障がい者への理解を広め、「福祉」をより身近に感じていただけたのではないかと思います。

今回は、昨年より多くの方にご来場いただき、京都YMCAの専門学校での活動を紹介することができました。来年度も多くの方に応援していただけるよう、企画していきたいと思っています。

報告 伊藤恭子

125周年記念事業 特別講演会 「病と社会的差別」

インドランチ市のハンセン病患者とその家族の住むコミュニティの支援を長年続けているボランティアグループフーロカールと京都YMCAの朝橋会メンバー有志との共同主催で京都YMCA 125周年を記念して企画された

「病と社会的差別」の特別講演会が、11月8日(土)に京都YMCAで開催されました。



ハンセン病については日本では、新たな発病者はほとんど出ておりませんが、世界ではまだ発症例が多く報告されている地域もあります。今や病気自体は新しい薬の開発で恐ろしい病気ではなくなっているのですが、その病気の持つ特性から社会的に差別を受けてきました。近年ではHIV/AIDSも同じように社会的に差別を受けています。

講師は、京都大学医学部皮膚科の非常勤講師で、国立療養所長島愛生園で一九六九年から長年ハンセン病患者に関わりをもつてこられたハンセン病専門医の尾崎元昭氏で、ハンセン病についてその病状から歴史、世界での状況等について幅広くわかりやすくお話いただきました。

京都市内の教会関係者をはじめ約50名の方が参加され、先生の貴重なお話を熱心に耳を傾けられました。講演後には何人かの質問にも丁寧にお答えいただき、よき学びのときとなりました。

報告 加藤俊明

125周年記念事業 防災ワークショップ 第2回

今年も全国で異常気象や自然災害により国内外で多くの方が被災されました。いつ自分の身近なところで自然災害が起こり、自分が被災者となるかわかりません。自分の身を自分で守り、そしてそのような事態が起こった時にどう動くかを普段から考えておこうという事で昨年より始まった社会セミナーの防災ワークショップの第2弾「水災害から身を守るために」あなたの行動を考える」が京都YMCAマナホールで11月10日に行われました。参加者28名は、5

6名のグループに分かれて、講師の京都市消防局安全救急部市民安全課の水島一彦さんによって進められる内容について協議しました。

まず、気象情報についての解説が質問形式で進められました。注意報や警報・特別警報など普段耳にすることのある気象情報のそれぞれの意味について知ること、発令された際の行動の判断材料になる学びでした。

次に、各自に「YES」「NO」と書かれた2種類のカードが配られ、講師からある状況下で警報が発令された場合あなたは避難しますか、というような問いが投げかけられ、それぞれが「YES」「N

O」のカードを出してその理由などを述べ合うといった方式で、ある条件下でのそれぞれの行動について考えるワークショップがこなわれました。それぞれのグループで、参加者が自分の判断理由について意見を交換し合い活発な協議が行われていました。

報告 加藤俊明

125周年記念事業 ユーススポーツ大会

開催日 11月8日(土)・9日(日)

会場 福井県おおい町総合運動公園「フレパーク大坂」

種目 小学生サッカー(U・10・U・11・U・12) 小学生ミニバスケットボール(男子・女子)

サッカー大会は、8日と9日の2日間開催し、10才・11才・12才の区分に愛知県・大阪府・滋賀県・京都府・福井県から全26チームの参加があり、京都YMCAユーススポーツサッカーからも4チームが参加しました。大会会場は二〇一二年に完成した素晴らしい人工芝のグラウンドで、参加したメンバーにとってはとても良い経験になりました。

ミニバスケットボール大会は、9日に開催し、男子と女子の区分に京都府と福井県から4チームずつの全8チーム、京都YMCA



ユーススポーツバスケットボールからも男子チームが参加しました。また前日の8日には地元の福井県の男子チームとの交流試合も開催することができました。

京都YMCAユーススポーツのサッカー・バスケットボールクラスのメンバーにとつては、宿泊を兼ねた主催大会は初めてであり、今まではYMCA以外の他府県とのチームとの交流もあまりなく、とても良い経験になったと思います。結果はサッカーにおいては、3位以内に入賞するチームもありました。初日のU・12の3位決定戦ではPKで残念ながら敗戦した



時はメンバーの涙もあり悔しさもありましたが、次に繋がる大会になりました。

ミニバスケットボール大会においては京都YMCAの男子チームが見事優勝を勝ち取ることができました。参加した他チームからは、今大会をぜひ継続開催して欲しいとのことのお話とも思います。

その他、運営面においては、京都部のワイズメンズクラブの方々にもご協力をいただきました。今大会を京都YMCA 125周年記念事業のひとつとして開催したことをきっかけに第2回・第3回と継続して開催していければと思います。

報告 山田 誠

京都YMCA・京都YWCA合同新橋通 仁藤夢乃さん講演会

毎年11月に行われる世界YMCA/YWCA合同新橋通に合わせて、京都ではYMCAとYWCAが例年その年のテーマに合わせたプログラムを合同で企画、実施しています。

会場も交互に開催し、今年は秋に改修を終えてリニューアルした京都YWCAを会場に開催しまし

た。

今年の企画は、京都YWCAが新しく始める若者の自立援助ホーム「カルーナ」の関連もあり、現代の若者の居場所の問題を取り上げようと、自らの体験をもとに「難民高校生」という本を出し、家庭にも学校にも居場所を無くし、街で生活する女子高校生を支援する女子高校生サポートセンターColumbia代表の仁藤夢乃さんを招いての講演会となりました。

この講演会前に講師の仁藤夢乃さんを取り上げた番組が放映されたことや、朝日新聞が記事にした影響もあり、直前に急に申し込みが増えました。当初50名くらいの予想が、ふたを開けてみると80名以上の方が訪れ、会場のホールに収まりきれないほどの盛況ぶりでした。高校生や大学生といった若い方も多く、仁藤夢乃さんの知名度もあったのでしようがこの問題に対する若い人たちの関心の高さを感じることができました。

講演は、最近女子高校生を性の商品とするJKビジネスと言われるビジネスについての内容で、それに関わる大人たちの実態やそれらのビジネスを成り立たせる若者の貧困の問題など実際の例をもとに掘り下げて説明するものでした。

初めて聞く者にとつては驚くような内容もあり、それだけに問題の深刻さを感じさせる話でした。そのような生活をするのは本人の自己責任だと片付けがちですが、

女子高校生の問題ではなくまさに大人の問題であり、まずその実態をきちんと知って、社会全体の問題として取り組まなければならぬことだと感じさせる内容でした。

報告 加藤俊明



125周年記念事業 シンポジウム がんに向き合う

11月15日、京都ノー

トルダム女子大学新ユージニア館にて「シン

ポジウム がんに向き合う」を開催しまし

た。この催しは京都YMCAが毎月、がん患

者さんとそのご家族が

抱いている苦しみや悩

みについて、患者さん

同士、そのご家族同士

が話し合い、がんとうまく付き合

うための情報交換の場として開催している「がん患者さんの会」が

間もなく100回の節目を迎えるにあたり、京都YMCA創立125周年記念事業の一つとして、より多くの方の心の悩みをやわらげるお手伝いをしたいという目的で企画し、京都ノートルダム女子大学に会場を提供していただく事で実現しました。

京都ノートルダム女子大学教授、医学博士の河瀬雅紀氏、京都府立医科大学小児科学教室講師の柴原康通氏、京都大学大学院人間・環境学研究科研究員、京都大学博士の佐藤泰子氏による講演では、それぞれの講演者の専門分野における、がんに対する考え方や患者さんやそのご家族へのサポートの実例などをお話しいただきました。

また、京都YMCA以外にも、地域社会において活動されているいくつかのがん患者サロン・ピ

アサポート団体の紹介やディスカッションをおこない、患者さんやそのご

家族それぞれの事情に合ったがんとの向き合い方があ

る事を知っていた

ことができました。

シンポジウムの最後は元ザ・ナターシャ・セブンの兼

